

医療と介護の「絆」を考える

(小規模多機能施設の立場から医療に期待する役割)

平成22年11月27日

鶴巻高齢者複合施設ケアタウンあじさいの丘

佐野 眞一

神奈川県秦野市及び所在地域の概要

- 神奈川県秦野市
- 人口:約17万人 高齢化率:20.6%

特徴

東京や横浜のベッドタウンとして、昭和40年代から50年代に人口が急増したが、近年の人口は微増状態で、少子高齢化が急速に進んでいる



秦野市東部地域

(小田急線鶴巻温泉駅・東海大学前駅を中心とした生活圏域)

- 人口:約3万8千人 高齢化率:約21.2%

特徴

- 起伏のある土地で坂道が多い。昔からの住民と若い世代の転入者が多いが、高齢化も進んでいる。

約40年前に整備された高齢化率40%超の公営大規模団地もあり、更に高齢者が増え続けている。



あじさいの丘全景



高齢者複合施設ケアタウンあじさいの丘概要

(平成20年3月開設 6階建て)

• 1階

・鶴巻ホームケアクリニック

(訪問診療専門 = 在宅支援診療所 医師1名 事務員1名)

・鶴巻訪問看護ステーション

(訪問看護 夜間は当直体制 看護師15名 PT・OT5名

契約在宅支援診療所16 指示書発行医療機関総数39

月平均利用者数約200名前後 内鶴巻ホームケアクリニック利用者約30名

月平均延べ訪問件数約1500件前後)

・鶴巻訪問看護ステーション居宅介護支援センター

(ケアマネージャー6名)

・鶴巻ホームヘルプセンター

(介護福祉士11名 ヘルパー9名 サービス提供責任者5名(介護福祉士)

ALS等のヘルパーによるたんの吸引も実施)

- 2・3階 グループホーム鶴巻

(認知症高齢者グループホーム 2ユニット定員18名
協力医療機関6カ所 ホーム内で看取りまで実施)

- 4階 デイサービスセンター鶴巻

(小規模多機能型居宅介護 登録定員25名
通い定員15名 泊まり定員5名 協力医療機関8カ所
看護師常勤2名非常勤1名が在籍し、医療依存度が高い在宅
の利用者を積極的に受入れ センター内での看取りも1名実施)

- 5・6階 レジデンスあじさいの丘

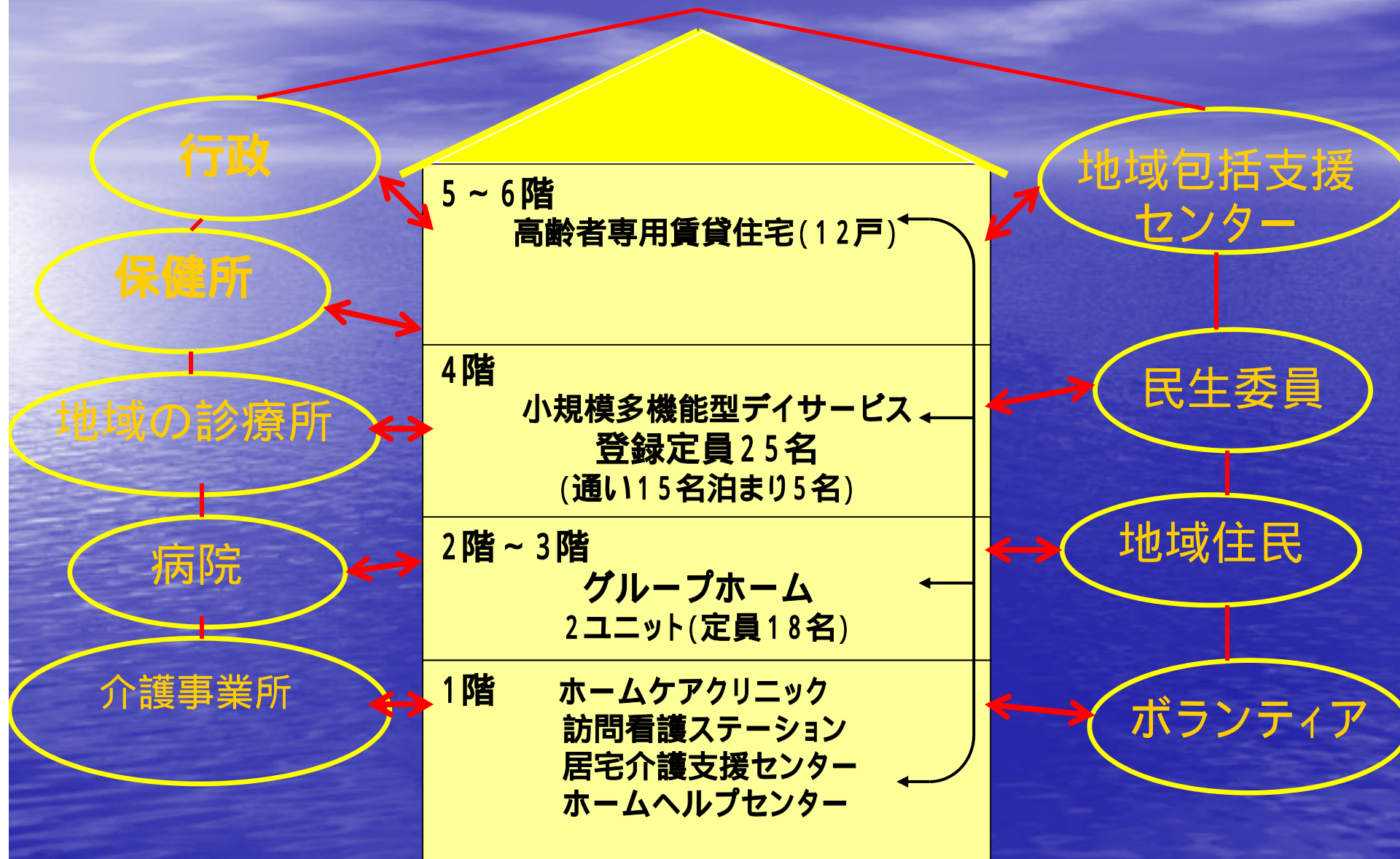
(高齢者専用賃貸住宅12戸
自立生活者5名 要介護生活者7名 協力医療機関1カ所)

あじさいの丘の理念

医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ、高齢者の方々が訪問、通所、泊まり、居住のサービスを受けながら、住み慣れた地域で馴染みの人々に囲まれ、その人らしい生活が送れるよう支援いたします。



利用者の多様性を認め、多機能性を提供



あじさいの丘では介護現場と医療・看護との連携は欠かせぬ要素

あじさいの丘の介護現場

(グループホーム・小規模多機能デイサービス・高齢者専用賃貸住宅)

- 医療依存度の高い利用者が多い
- 主治医の定期往診による利用者の健康管理
- 早朝夜間帯の緊急対応
- 看取りの対応
- 利用者の様々な健康トラブルが出現

あじさいの丘での介護と医療の接着剤は、 当直体制をとり24時間活動する 訪問看護ステーション(訪問看護師)が担う

あじさいの丘での訪問看護ステーションの役割

- ・緊急時早朝夜間帯を中心に24時間対応
- ・看取りのサポート
- ・地域の病院・診療所医師との連携
- ・介護職への健康・病状観察・介護技術・吸引指導
- ・病状悪化時における医師の指示のもとに行われる
医療行為及び介護職との協働ケア
- ・日常健康管理面での介護職からの相談受付

小規模多機能型デイサービスセンター鶴巻 利用者状況

利用登録者合計25名(一部重複疾患あり)

- 認知症 10名(胃ろう注入1名)
- 脳梗塞 6名(胃ろう注入2名)
- 胃がん後 1名
- 心不全 4名(ペースメーカー2名)
- 腎不全 1名(週3回透析)
- 糖尿病 2名(毎日インスリン注射1名)
- 肺気腫 2名(慢性呼吸不全1名 在宅酸素1名)

デイサービスセンター鶴巻のある日のスナップ



あじさいの丘の医療・介護連携 高齢者複合施設という器の効能も大きい

- 24時間365日当直体制をとる、地域に根ざした訪問看護ステーションを併設する
- 併設するクリニックに加え、地域の13診療所の主治医と常時往診に来る5診療所の先生が施設内に入出りし、ケースを通じての介護職及び看護職との交流の機会が多い
地域診療所の先生より、在宅で利用者の健康状態が悪化した場合などは、病院ではなく、暫くデイサービス(泊まりも含む)を利用して、様子を見たいとの依頼を受けるケースもある
- 往診医が休む場合は、往診医間及び併設クリニックの間で相談連携し、相互補完している
- 病状の重度化や急変を含め、介護職員と協働により、医師看護師が迅速に対応することが出来る

介護職が医療職と接する中で 喜びを感じることに

- 医師が介護職を365日24時間利用者をみている命や健康の擁護者として、またチームケアの一パートナーとして接してくれる
- 医師から利用者の健康状態や病状が、日々の生活支援介護環境活動によって、良くなったと言われること(介護の力も大きい)
胃ろうにてグループホームに入居された利用者が、介護職の日々の食事形態や嚥下能力を加味した食事介助アプローチにより、胃ろうから口腔からの食事摂取に変化
- 利用者の病状や日常のケア方法について、介護職に直接丁寧に話をしてくれる
百聞は一見に如かず・・・講演会や勉強会による知識の吸収も大切だが、直接臨床を通じて医師から聞くことが最も頭に入り残る。ケアの質も格段に向上する

地域かかりつけ医とのカンファレンス



介護職と医療職の連携 チームケアの一員となる為の 介護職の必要要素

- 利用者の日常生活全般や課題について、誰よりも一番良く解り、自分らしく生きていけるよう生活の一コマ一コマを大切かつ丁寧に支援することができる
在宅では家族と同居しながらも、うつ傾向にあった認知症と肺気種の疾患を持った利用者が、グループホームに入ったところ明るく元気になった
- 利用者の疾病や健康の変化及び訴えに対し、直ぐに看護師や医師にSOSを出し丸投げしてしまうのではなく、表情やバイタル、訴えのレベルや変化に至る要因や兆候を把握した上、相談依頼することができる
- 利用者の特性によって異なる医療・看護職との連携支援（チームケア）の仕組みが理解できている（役割分担）

介護職員吸引勉強会



実際に吸引の手技を確認



まとめ

- 今後、介護福祉士による胃ろう管理や吸引等の医療行為等の業務分担拡大は、諸刃の剣になりうる
- 介護職は、要介護者の生活の質を高める主軸としての位置づけと認識、仕組みづくりが必要
 - 医師とケアマネージャーまでの関わりの仕組み作りは出来つつある
- 介護職が主軸となり、医療・看護・介護が密接に連携し、医療看護のサポート体制が確立されていれば、医療依存度が高い利用者であっても、病院ではなく在宅及び在宅に準じる施設において、家族や地域に囲まれながら過ごせることが可能